

漢文「置き字（読まない字）」識別 100題ドリル 解答・解説編

【第1部】基礎 (Q1~Q20)

- Q1. ▶ 答え：ア 「而」は読まない接続の置き字。前の語に「て」を添える。書き下し「学びて時に之を習ふ」。(論語)
- Q2. ▶ 答え：イ 「於」は名詞の前に置く前置詞の置き字。下の「水」に「よりも」を添える。書き下し「氷は水よりも寒し」。比較。
- Q3. ▶ 答え：ウ 「焉」は文末に置く置き字。読まない。書き下し「必ず師有り」。
- Q4. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。前に「にして」を添える。書き下し「三十にして立つ」。(論語)
- Q5. ▶ 答え：イ 「於」は前置詞の置き字。書き下し「玉は石よりも貴し」。比較。
- Q6. ▶ 答え：ウ 「兮」は詩の調子を整える置き字。読まない。書き下し「力は山を抜き」。(項羽・垓下歌)
- Q7. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。前に「して」を添える。書き下し「和して同ぜず」。(論語)
- Q8. ▶ 答え：ア 「於」は場所を示す。書き下し「君子は朝に立つ」。「朝廷に立つ」。
- Q9. ▶ 答え：イ 「於」は比較。形容(動)詞の後で「~より」。書き下し「霜葉は花よりも紅なり」。(杜牧・山行)
- Q10. ▶ 答え：ウ 「治めらる」は受身。「於」は受身の相手を示す。書き下し「小人は人に治めらる」。(孟子)
- Q11. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。書き下し「過ちて改めず」。(論語)
- Q12. ▶ 答え：イ 「於」は前置詞の置き字。書き下し「苛政は虎よりも猛なり」。比較。(礼記)
- Q13. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。書き下し「死して後已む」。
- Q14. ▶ 答え：ア 「於」は場所を示す。書き下し「京に学ぶ」。
- Q15. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「海は河よりも深し」。
- Q16. ▶ 答え：ウ 「殺さる」は受身。書き下し「賊に殺さる」。「賊に殺される」。
- Q17. ▶ 答え：ウ 「矣」は文末の置き字。読まない。書き下し「是れ過ちと謂ふ」。
- Q18. ▶ 答え：ウ 「用ゐらる」は受身。書き下し「君に用ゐらる」。「主君に用いられる」。
- Q19. ▶ 答え：ア 「於」は対象を示す。書き下し「師に問ふ」。「先生にたずねる」。
- Q20. ▶ 答え：ア 「而」は置き字で読まない。前の「暖」に「にして」を添える。書き下し「春は暖にして花開く」。
- Q21. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「金は木よりも堅し」。
- Q22. ▶ 答え：ウ 後半「役せらる」は受身。書き下し「君子は物を役し、小人は物に役せらる」。(荀子)
- Q23. ▶ 答え：ア 「於」は場所・対象。書き下し「斉に仕ふ」。「斉の国に仕える」。
- Q24. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「泰山は丘よりも高し」。
- Q25. ▶ 答え：ウ 「笑はる」は受身。書き下し「人に笑はる」。「人に笑われる」。
- Q26. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。前に「て」を添える。書き下し「故きを温めて新しきを知る」。温故知新。(論語)
- Q27. ▶ 答え：ウ 「矣」は文末の置き字。読まない。書き下し「以て師と為るべし」。(論語・温故知新の後半)
- Q28. ▶ 答え：ア 「於」は場所。書き下し「山に隠る」。
- Q29. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「命は泰山よりも重し」。

- Q30. ▶ 答え：ウ 「破らる」は受身。書き下し「敵に破らる」。「敵に破られる」。
- Q31. ▶ 答え：イ 「於」は比較の置き字＝「より」。「海は河よりも深し」。
- Q32. ▶ 答え：イ 「於」は対象を示し「に」。書き下し「師に問ふ」。
- Q33. ▶ 答え：イ 「治めらる」は受身。「於人」＝人に。「小人は人に治めらる」。(孟子)
- Q34. ▶ 答え：ア 「於」は対象。書き下し「己に求む」。「自分に求める」。(論語「君子求諸己」の趣旨)
- Q35. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「鴻毛よりも軽し」。(司馬遷)
- Q36. ▶ 答え：ウ 「制せらる」は受身。書き下し「人に制せらる」。「人に支配される」。
- Q37. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。書き下し「敏にして学を好む」。(論語)
- Q38. ▶ 答え：ウ 「焉」は文末の置き字。読まない。書き下し「三人行へば、必ず我が師有り」。(論語)
- Q39. ▶ 答え：ア 「於」は読まない置き字。下の「石」に「よりも」を添える。書き下し「玉は石よりも美し」。
- Q40. ▶ 答え：イ 「於」は比較＝「より」。「金は鉄よりも堅し」。
- Q41. ▶ 答え：ア 「於」は対象。書き下し「君に告ぐ」。「主君に申し上げる」。
- Q42. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「千金よりも貴し」。
- Q43. ▶ 答え：ウ 「欺かる」は受身。書き下し「友に欺かる」。「友に欺かれる」。
- Q44. ▶ 答え：イ 「於」は場所＝「に」。「君子は朝に立つ」。
- Q45. ▶ 答え：ア 傍線部「而」は接続(逆接)の置き字。書き下し「良薬は口に苦けれども病に利あり」。(孔子家語) ※下の「於」は対象(「病に」)。
- Q46. ▶ 答え：ア 「於」は時を示す(場所・時の仲間)。書き下し「今日に始まる」。
- Q47. ▶ 答え：イ 「用ゐらる」は受身。「於世」＝世に。「世に用ゐらる」。「世に用いられる」。
- Q48. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「泰山よりも重し」。(司馬遷「死は泰山よりも重し」)
- Q49. ▶ 答え：ア 「而」は置き字で読まない。前の「学び」に「て」を添える。書き下し「学びて厭はず」。(論語)
- Q50. ▶ 答え：ウ 傍線部「兮」は詩文の調子を整える置き字。読まない。書き下し「智者は水を楽しむ」。
- Q51. ▶ 答え：ウ 「役せらる」は受身、「於物」＝物に。「物に使われる(物に振り回される)」。(荀子)
- Q52. ▶ 答え：イ 「於」は比較＝「より」。「氷は水よりも冷たい」。
- Q53. ▶ 答え：ウ 「殺さる」は受身。「於敵」＝敵に。「敵に殺さる」。
- Q54. ▶ 答え：イ 「於」は比較。「むごい政治は虎よりも恐ろしい」。(礼記)
- Q55. ▶ 答え：
ウ 「而」は接続の置き字。前の語に「て」を添える。「学びて思はず」。(論語「学而不思則罔」より)
- Q56. ▶ 答え：イ 「於」は対象＝「に」。「賢者にたずねる」。
- Q57. ▶ 答え：ウ 「於」は比較＝「より」。「山よりも高し」。
- Q58. ▶ 答え：イ 「制せらる」は受身、「於人」＝人に。「人に支配される」。
- Q59. ▶ 答え：ウ 「於」は場所・時＝「に」。「乱世に生まる」。「乱れた世に生まれる」。
- Q60. ▶ 答え：ア 「而」は接続。「三十にして立つ」＝三十歳で自立する。(論語)
- Q61. ▶ 答え：イ 「笑はる」は受身。「於衆」＝衆に。「衆に笑はる」。「多くの人に笑われる」。
- Q62. ▶ 答え：ウ 「和して同ぜず」＝協調するが安易に同調しない。「而」は接続の置き字。(論語)

- Q63. ▶ 答え：ア 「於」は比較＝「より」。「鼎（かなえ）よりも重し」。
- Q64. ▶ 答え：イ 「於」は場所＝「に」。「門に立つ」。
- Q65. ▶ 答え：ウ 「破らる」は受身。「於楚」＝楚に。「楚に破らる」。「楚の国に破られる」。
- Q66. ▶ 答え：ア 「於」は比較。「海よりも深い」。
- Q67. ▶ 答え：イ 「於」は対象＝「に」。「天に告ぐ」。「天に申し上げる」。
- Q68. ▶ 答え：ウ 「用ゐらる」は受身。「於国」＝国に。「国に用いられる（登用される）」。
- Q69. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。「敏にして学を好む」。（論語）
- Q70. ▶ 答え：イ 「於」は比較。「金よりも貴い」。
- Q71. ▶ 答え：ウ 「於」は場所＝「に」。「野に隠る」。
- Q72. ▶ 答え：ア 「欺かる」は受身。「於人」＝人に。「人に欺かれる」。
- Q73. ▶ 答え：イ 「於」は比較＝「より」。「火よりも猛なり」。「火よりも激しい」。
- Q74. ▶ 答え：ウ 「而」は接続。「学びて時に之を習ふ」＝学んでは折にふれ復習する。（論語）
- Q75. ▶ 答え：ア 「於」は対象＝「に」。「魏に仕ふ」。「魏の国に仕える」。
- Q76. ▶ 答え：イ 「焉」は文末の置き字で読まない。「必ず師有り」＝きっと手本となる人がいる。
- Q77. ▶ 答え：イ 「於」は比較。書き下し「前よりも厚し」。「以前より手厚い」。
- Q78. ▶ 答え：ウ 「養はる」は受身。書き下し「親に養はる」。「親に養われる」。
- Q79. ▶ 答え：ア 「於」は場所。書き下し「野に戦ふ」。「野原で戦う」。
- Q80. ▶ 答え：ア 「而」は読まない置き字。前の「死」に「して」を添える。書き下し「死して後已む」。
- Q81. ▶ 答え：ウ 杜牧「山行」。「於」は比較＝「より」。「霜葉は二月の花よりも紅なり」。
- Q82. ▶ 答え：ア 礼記。「於」は比較。「苛政は虎よりも猛なり」＝むごい政治は虎よりも恐ろしい。
- Q83. ▶ 答え：ア 「而」は接続の置き字。書き下し「故きを温めて新しきを知る」。温故知新。（論語）
- Q84. ▶ 答え：イ 論語。「而」は接続。「君子は和して同ぜず」。
- Q85. ▶ 答え：ウ 論語。「焉」は文末の置き字。読まない。「三人行へば、必ず我が師有り」。
- Q86. ▶ 答え：ウ 孟子。「治めらる」は受身、「於人」＝人に。「力を勞する者は人に治めらる」。
- Q87. ▶ 答え：ウ 項羽「垓下歌」。傍線部「兮」は詩の調子を整える置き字。読まない。「力は山を抜き、気は世を蓋ふ」。
- Q88. ▶ 答え：ア 論語。「諸」は「これを」。「君子は（原因を）自分に求め、小人は他人に求める」。
- Q89. ▶ 答え：イ 荀子。傍線部「而」は接続（逆接）の置き字。下の「於」は比較。「氷は水之を為して、水よりも寒し」。
- Q90. ▶ 答え：ウ 論語（温故知新の後半）。「矣」は文末の置き字。読まない。「以て師と為るべし」。
- Q91. ▶ 答え：イ 荀子「青は藍よりも青し」。「於」は比較＝「より」。弟子が師にまさるとえ（出藍の誉れ）。
- Q92. ▶ 答え：ウ 孟子。文末「矣」は置き字で読まない。「千万人といへども、吾往かん」＝相手が大勢でも、私は信じる道を行く。
- Q93. ▶ 答え：ア 孔子家語。傍線部「而」は逆接の接続。下の「於」は対象。「良薬は口に苦けれども病に利あり」。

- Q94. ▶ 答え：イ 論語。「於」は対象＝「に」。「自分が望まないことを、人にしてはならない」。
- Q95. ▶ 答え：ウ 論語「過而不改、是謂過矣」。「而」は接続。「あやまちを改めないこと、それを本当のあやまちという」。
- Q96. ▶ 答え：ア 論語。「而」は接続の置き字。「学びて思はざれば則ち罔し」＝学んでも考えなければ、ぼんやりして身につかない。
- Q97. ▶ 答え：イ 老子。「於」は起点・場所＝「より／に」。「千里の行も足下より始まる」＝大事業も小さな一歩から。
- Q98. ▶ 答え：ア 論語。傍線部「而」は接続の置き字。「敏にして学を好み、下問を恥ぢず」。
- Q99. ▶ 答え：ウ 国語（春秋）。「於」は比較。「民の口を防ぐは、川を防ぐよりも甚だし」＝言論をおさえるのは治水より厄介だ。
- Q100. ▶ 答え：ア 論語。文末「矣」は置き字で読まない。「朝に真理を聞けたなら、その晩死んでもかまわない」。